

# 福岡県居住者の暮らし向きに関する調査 結果報告書

2013年2月  
株式会社ジーコム 生活行動研究所

## 1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」に対するインターネット調査

## 2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

## 3. 調査時期

平成24年12月14日(金)～12月18日(火)

## 4. 調査規模

451サンプル

### 【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	215	47.7
女性	236	52.3
全体	451	100.0

■年代	件数	構成比(%)
10・20代	80	17.7
30代	90	20.0
40代	96	21.3
50代	96	21.3
60代以上	89	19.7
全体	451	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡都市圏	341	75.7
その他の福岡県内	110	24.3
全体	451	100.0

■未既婚・子ども有無	件数	構成比(%)
未婚・一人暮らし	56	12.4
未婚・家族と同居	54	12.0
既婚・子どもなし	60	13.3
既婚・扶養子ども有	174	38.6
既婚・子育て終了	107	23.7
全体	451	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	145	32.2
公務員	21	4.7
団体職員	6	1.3
会社役員	7	1.4
派遣社員・契約社員	21	4.7
商工自営	23	5.1
農林漁業	1	0.2
自営手伝い	1	0.2
医師・弁護士・税理士等	6	1.3
学生	19	4.2
パート・アルバイト	61	13.6
主婦専業	106	23.5
無職	34	7.6
その他	-	-
全体	451	100.0

■世帯年収	件数	構成比(%)
200万円未満	61	13.4
200～300万円未満	72	15.9
300～400万円未満	63	14.0
400～500万円未満	63	14.0
500～600万円未満	49	10.9
600～700万円未満	43	9.6
700～800万円未満	25	5.5
800～900万円未満	18	4.0
900～1000万円未満	23	5.2
1000～1500万円未満	27	6.0
1500万円以上	7	1.5
全体	451	100.0

### 【報告書の見方】

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・報告書中の図表では、コンピューター入力の場合、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

## 暮らし向き判断指数は横ばいで、男性や60代以上でマイナスの幅が大きい。

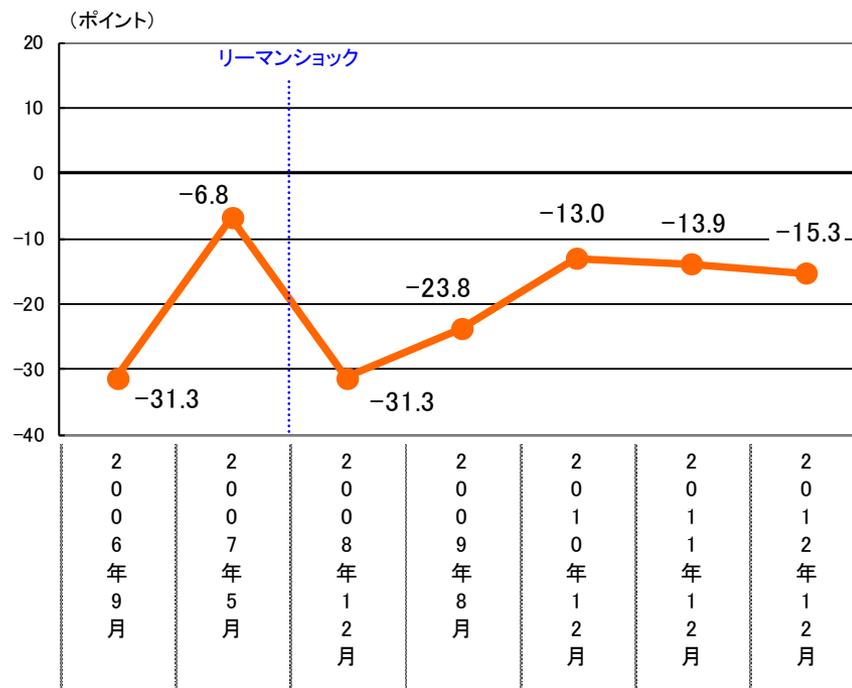
1年前と比べて暮らし向きが「良くなった」「どちらかというと良くなった」と回答した割合から、「悪くなった」「どちらかというと悪くなった」と回答した割合を差し引いた“暮らし向き判断指数”は、マイナス15.3ポイント。リーマンショック直後の2008年12月以降は回復傾向にあったが、ここ数年はやや低下傾向にある。

- ・性別で見ると、男性は女性に比べて暮らし向き判断指数のマイナス幅が大きい。
- ・年代別では、30代以上は暮らし向き判断指数がマイナスで、特に60代以上ではマイナス幅が大きくなっている。
- ・世帯年収別では、300万円未満の層で暮らし向き判断指数のマイナス幅が大きい。

◆1年前と比べた暮らし向きの変化【単一回答】

		調査数	良くなった	どちらかという と良くなった	どちらとも いえない	どちらかという と悪くなった	悪くなった	肯定層	否定層	暮らし向き 判断指数
			【%】	【%】	【%】	【%】	【%】	【%】	【%】	【ポイント】
全体		451	2.5	14.6	50.6	23.2	9.2	17.1	32.4	-15.3
性別	男性	215	3.1	13.3	49.8	23.3	10.6	16.4	33.9	-17.5
	女性	236	2.0	15.8	51.3	23.1	7.9	17.8	31.0	-13.2
年代別	20代	80	5.4	26.9	46.5	14.8	6.4	32.3	21.2	11.1
	30代	90	2.7	9.8	55.8	23.3	8.3	12.5	31.6	-19.1
	40代	96	2.4	19.0	46.0	22.2	10.5	21.4	32.7	-11.3
	50代	96	2.5	12.6	46.3	26.4	12.2	15.1	38.6	-23.5
	60代以上	89	-	5.6	58.4	28.1	7.9	5.6	36.0	-30.4
世帯年収別	300万円未満	132	1.8	12.4	44.1	26.7	15.0	14.2	41.7	-27.5
	300~500万円未満	127	1.8	11.3	55.2	21.1	10.7	13.1	31.8	-18.7
	500~700万円未満	92	4.6	15.0	51.5	26.3	2.6	19.6	28.9	-9.3
	700~900万円未満	43	2.1	22.6	54.8	17.0	3.4	24.7	20.4	4.3
	900万円以上	50	1.5	19.1	53.4	21.5	4.5	20.6	26.0	-5.4

◆暮らし向き判断指数の推移



\* 肯定層: 「良くなった」+「どちらかというと良くなった」  
 否定層: 「悪くなった」+「どちらかというと悪くなった」  
 暮らし向き判断指数: 肯定率-否定率

## 2. 暮らし向きが良くなった理由

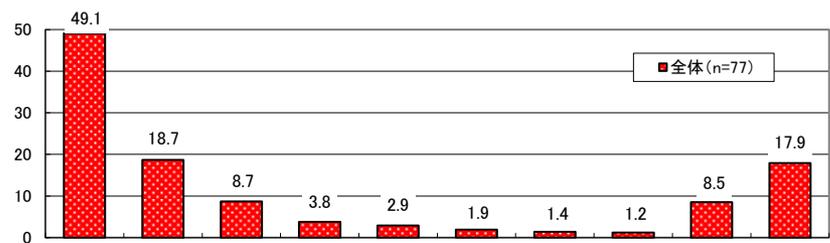
### 暮らし向きが良くなった理由は「世帯主の収入増」が第1位。

1年前と比べて暮らし向きが「良くなった」「どちらかという良くなった」と回答した層の、暮らし向きが良くなった理由は、「世帯主の収入が増えたから」の割合が49.1%で第1位、2位以下の「節約して支出を減らしたから」18.7%、「共働きするようになったから」8.7%とは開きがある。

・サンプル数が少ないため参考程度ではあるが、性別で見ると、男性は女性に比べて「世帯主の年収が増えたから」、女性は男性に比べて「節約して支出を減らしたから」の割合がやや高い。

※サンプル数が少ないため、年代別、世帯年収別の分析は省略した。

◆1年前と比べて暮らし向きが良くなった理由  
【複数回答】



		調査数	世帯主の収入が増えたから	節約して支出を減らしたから	共働きするようになったから	子育てが終わったから	住宅などのローンの支払いが終わったから	家族の人数が減ったから	同居している子どもが社会人になったから	副業を始めたから	その他	特にない・わからない
全体		77	49.1	18.7	8.7	3.8	2.9	1.9	1.4	1.2	8.5	17.9
性別	男性	35	54.2	13.7	8.3	5.1	2.6	2.6	-	-	5.1	13.4
	女性	42	44.7	22.9	9.1	2.7	3.2	1.3	2.7	2.1	11.4	21.7
年代別	20代	26	42.5	22.7	13.7	-	3.0	-	-	-	9.0	24.0
	30代	11	62.4	15.9	4.0	-	-	-	-	4.0	4.0	21.7
	40代	21	60.0	19.9	13.2	-	4.5	4.5	-	2.2	2.2	8.9
	50代	15	38.0	11.5	-	20.2	3.8	3.8	7.7	-	16.3	16.3
	60代以上	5	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0
世帯年収別	300万円未満	19	41.6	33.6	-	3.0	-	-	-	-	18.4	23.0
	300~500万円未満	17	37.5	11.7	7.4	-	5.6	-	6.8	2.7	12.9	18.2
	500~700万円未満	18	44.1	7.4	18.7	5.0	4.3	-	-	-	5.5	26.7
	700~900万円未満	11	74.5	21.4	4.2	-	-	-	-	4.2	-	8.5
	900万円以上	10	50.4	24.6	16.1	14.1	5.4	14.2	-	-	-	7.4

### 3. 暮らし向きが悪くなった理由

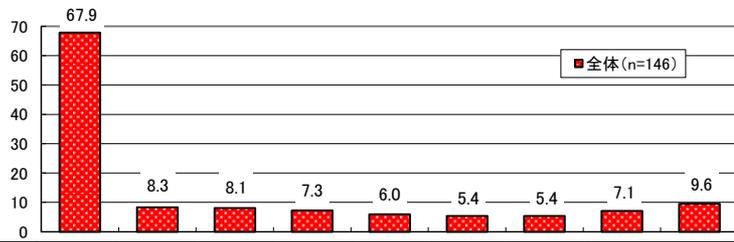
暮らし向きが悪くなった理由は「世帯主の収入減」が第1位で、40・50代は特にその傾向が強い。

1年前と比べて暮らし向きが「悪くなった」「どちらかという悪くなった」と回答した層の、暮らし向きが悪くなった理由は、「世帯主の収入が減ったから」の割合が67.9%で第1位で、2位以下の「住宅などのローンの支払いが始まったから」8.3%、「共働きをやめたから」8.1%とは開きがある。

- ・性別では大きな違いは見られない。
- ・サンプル数が少ないため参考程度だが、年代別に見ると、20代は「住宅などのローンの支払いが始まったから」、30代は「家族の人数が増えたから」、40代は「教育費が増えたから」、50代は「別居家族への仕送りが必要になったから」、また40・50代は「世帯主の収入が減ったから」の割合が、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。

※サンプル数が少ないため、世帯年収別の分析は省略した。

◆1年前と比べて暮らし向きが悪くなった理由  
【複数回答】



	調査数	減った世帯主の収入から	住宅などのローンの支払いが始まったから	共働きをやめたから	介護が必要になったから	別居家族への仕送りがなくなったから	家族の人数が増えたから	教育費が増えたから	その他	わからない
全体	146	67.9	8.3	8.1	7.3	6.0	5.4	5.4	7.1	9.6
性別										
男性	73	70.7	10.2	3.8	3.9	5.0	1.4	2.5	8.2	10.8
女性	73	65.0	6.4	12.4	10.7	7.0	9.3	8.3	6.0	8.4
年代別										
20代	17	53.6	25.5	13.7	4.6	-	4.6	-	11.8	16.3
30代	28	63.9	4.7	9.4	-	1.6	20.8	3.1	3.1	13.7
40代	31	74.0	4.4	10.3	11.6	2.9	-	15.8	2.9	7.2
50代	37	74.2	13.7	1.5	6.0	17.3	3.0	5.5	1.5	5.5
60代以上	32	65.6	-	9.4	12.5	3.1	-	-	18.8	9.4
世帯年収別										
300万円未満	55	63.2	-	6.1	4.6	5.1	7.7	1.6	9.9	14.0
300～500万円未満	40	72.7	7.8	14.5	12.0	2.5	6.4	4.5	4.7	7.2
500～700万円未満	27	65.5	27.0	8.1	8.5	5.1	3.8	10.6	7.5	7.2
700～900万円未満	9	75.8	10.3	5.1	6.4	23.1	-	-	-	6.4
900万円以上	13	75.2	6.9	-	3.4	12.0	-	11.1	-	6.9

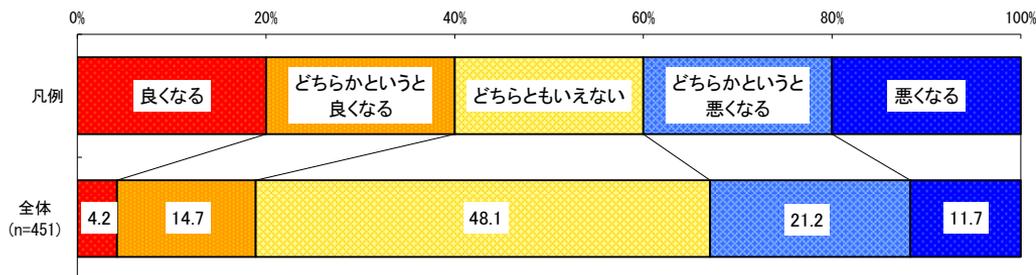
## 4. 2013年の暮らし向き予測

全体では悲観層が楽観層を上回っているが、20代は楽観層の割合のほうが高い。

2013年の自分自身の暮らし向きについて、「良くなる」「どちらかという良くなる」を合わせた楽観層は18.9%、「悪くなる」「どちらかという悪くなる」を合わせた悲観層は32.9%で、悲観層が楽観層を上回っている。

- ・性別で大きな違いは見られない。
- ・年代別では、20代は他の年代に比べて楽観層の割合が高く、悲観層を上回っている。また、60代以上は他の年代に比べて悲観層の割合が高い。
- ・世帯年収別では、700～900万円は楽観層の割合が高く、悲観層を上回っている。

◆2013年の暮らし向き予測  
【単一回答】



		調査数	良くなる	どちらかという良くなる	どちらともいえない	どちらかという悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層
			【%】				【%】		
全体		451	4.2	14.7	48.1	21.2	11.7	18.9	32.9
性別	男性	215	4.4	16.1	46.1	19.2	14.2	20.5	33.4
	女性	236	4.1	13.4	49.9	23.1	9.5	17.5	32.6
年代別	20代	80	7.3	21.6	56.4	9.7	5.0	28.9	14.7
	30代	90	3.2	13.1	51.1	22.1	10.4	16.3	32.5
	40代	96	4.7	17.1	46.0	20.3	11.8	21.8	32.1
	50代	96	4.0	12.1	46.6	19.5	17.9	16.1	37.4
	60代以上	89	2.2	10.1	41.6	33.7	12.4	12.3	46.1
世帯年収別	300万円未満	132	3.2	14.8	44.9	20.6	16.6	18.0	37.2
	300～500万円未満	127	4.9	9.4	53.7	25.6	6.4	14.3	32.0
	500～700万円未満	92	4.7	18.4	46.4	18.0	12.5	23.1	30.5
	700～900万円未満	43	7.8	19.3	49.3	12.4	11.2	27.1	23.6
	900万円以上	50	2.0	16.2	45.3	27.3	9.2	18.2	36.5

発行元：株式会社ジーコム 生活行動研究所

福岡市博多区古門戸町2番4号 KSコモンドビル4F

TEL 092-283-2085

FAX 092-262-6110

URL : <http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail : [info@gcom-net.co.jp](mailto:info@gcom-net.co.jp)